

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名	消防局
-----------	------------

基本計画	柱 人を育てる
	大項目 子育て・教育日本一を実感できる環境づくり
	取組みの方針 子どもの可能性をひらく学校教育の充実

担当局 / 総務担当課名	消防局	人事企画課
連絡先	582 - 3805	

21年度計画

-1-(2)-

施策名	子どもの特性を伸ばす教育の充実
------------	------------------------

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	生徒・児童に真の防災力が身に付くよう、受動的な一過性の教育ではなく、家庭や学校において多彩な防災教育を推進します。 また、消防職員としての仕事を通じて学んだ「命」の大切さ、尊さについての経験を学校教育の場に提供し、児童・生徒と共に考え学ぶ「心の教育」への参画を推進します。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	子どもの可能性をひらく学校教育の充実

	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		現状値		平成21年度	目標値	
	年度	平成21年度	計画	実績		年度	平成25年度
施策の成果	消防“夢”コンサート実施学校数	年度	平成21年度	計画	50 校	年度	平成25年度
	消防音楽隊の他の行事とのバランスから、年間50校程度の実施回数を維持することが適切です。 毎年、公演内容の見直しを図り、募集時期をより効果的な時期にする等の工夫により、依頼校の確保に努めます。	現状値	45校	実績	45 校	目標値	50校程度
				達成度	90.0 %		
	「消防士さんといっしょ」対象校の年間実施率	年度	平成21年度	計画	100 %	年度	平成22年度
	市内すべての小学校(ただし、特別支援学校及び複式学級等を除く)を対象とした年間実施率です。将来を担う子どもたちに「防火・防災」について認識をもたせることは、「災害に強いまち」とするための基盤として重要なことであるため、実施率100%と設定しました。	現状値	99%	実績	99 %	目標値	100%
				達成度	99.0 %		
	年度		計画		年度		
	現状値		実績		目標値		
			達成度	%			
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]			事業費	1,142 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)	
				うち一般財源	千円	3,825 千円	

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	A	「消防“夢”コンサート」及び「消防士さんといっしょ」の両事業とも、実施率について90%を超える達成率を示しており、最終年度の目標達成に向け、順調な推移だといえます。施策を構成する事業の推進状況も良好です。 しかしながら、「消防“夢”コンサート」については、昨年度においては新型インフルエンザによる学級閉鎖等、学校側の都合によるキャンセルが相次ぎ、実施率の低下につながってしまいました。やむを得ない中止に対し、振替え等の救済措置を検討する必要があります。
今後の局施策の方向性	年間の事業実施率について、90%を超えており、今後とも積極的な推進を図っていきます。 また、学校側の希望時期が集中することから、スケジュール調整が合わず、やむを得ず断る学校が例年数校ありますが、他の行事とのバランス等を考慮しても、現在の実施回数が適切です。 「災害に対する危機意識」や「災害対応能力」は、一朝一夕で身に付くものではないため、これからも継続的に実施していかなければなりません。	

[局施策評価] A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

<input checked="" type="checkbox"/> 適切な評価 <input type="checkbox"/> 下記のとおり

施策名 子どもの特性を伸ばす教育の充実

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]					21年度			21年度
消防“夢”コンサート			千円	1,050 千円				ア	
事業費のうち一般財源			千円						
消防士さんといっしょ			1,142 千円	2,775 千円	裁量的経費			ウ	
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						

局施策全体のコスト	21年度	
	事業費	人件費(目安)
施策全体の事業費のうち一般財源	1,142 千円	3,825 千円
	千円	

局施策の
21年度評価

A

[局施策評価]
 A: 大変良い状況にある
 B: 概ね良い状況にある
 C: 概ね良い状況とまでは言えない
 D: 不十分な状況にある

[事業の今後の方向性] ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	消防局	人事企画課
連絡先	582-3805	

基本計画	柱	人を育てる
	大項目	子育て・教育日本一を実感できる環境づくり
	取組みの方針	子どもの可能性をひらく学校教育の充実
	主要施策	子どもの特性を伸ばす教育の充実

関連計画	北九州市新消防プラン21
事業期間	平成14年度～
経費区分	

-1-(2)-

事業名		消防“夢”コンサート	
【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市内の小学校及び特別支援学校に出向き、音楽教育の一環として実施しているコンサートです。消防音楽隊による生演奏やカラーガード隊の統制された演技を通じて、本物の音楽の素晴らしさや多くの仲間と音楽を創造するチームワークの重要性を伝える等「心の教育」を実践します。また、火災をはじめとする災害の注意喚起を行い、幼少期からの「防火・防災思想」の高揚及び普及を図ります。	
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	子どもの特性を伸ばす教育の充実
		成果	消防“夢”コンサート実施学校数

【手】 目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度 年間実施学校数 50校程度	平成22年度 年間実施学校数 50校程度	平成23年度 年間実施学校数 50校程度	平成24年度 年間実施学校数 50校程度	平成25年度 年間実施学校数 50校程度	計画変更理由			
		現状	年間実施学校数 45校	実施済学校数 25校 (7月末現在)	年間実施学校数 50校程度	年間実施学校数 50校程度	年間実施学校数 50校程度				
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		消防“夢”コンサート実施学校数						計画	50校	年度	平成25年度
		消防音楽隊の他の行事とのバランスから、年間50校程度の実施回数を維持することが適切です。北九州市内の全小学校及び特別支援学校に募集します。毎年、公演内容の見直しを図り、募集時期をより効果的な時期にする等の工夫により、依頼校の確保に努めます。						実績	45校	内容	50校程度
								達成度	90.0%		
	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月[21年度:執行額]						事業費	千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
								うち一般財源	千円	1,050千円	
	単年度計画									職員14名 嘱託40名	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	21年度は、当初48校の応募がありましたが、新型インフルエンザの流行による学級閉鎖などで3校公演が中止となるケースがあったため、目標とする実施回数を果たすことができませんでした。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本物の音楽に触れることで実践される「心の教育」に加え、防火・防災思想を学ぶことができる事業は他になく、上位施策実現のために十分な効果が得られていると考えます。実際、学校側からは大変好評を得ており、お礼の手紙等を多数頂いています。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	4	これ以上コストを削減する余地はなく、より高い効果を得るためには、公演内容を毎年変更する等の工夫をする必要があります。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4	本事業は、平成14年度から本格実施しており、毎年楽しみにしている学校も多数あることから、休止・廃止する場合の影響は大いにあると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすることはできないのか。	4	4	消防音楽隊でなければ、本事業の内容・目的を達成することは不可能であり、市以外で行うことは困難です。音楽の素晴らしさを学んでもらうとともに、幼少期から「防火・防災思想」の高揚及び普及ができる機関は、消防音楽隊以外にないと思慮します。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア	本事業は、施策の実現に対する有効性も高く、今後も目標達成に向けた努力をしていく必要があります。平成22年度からは、学校側の人事異動等を考慮し新年度に募集通知を出すことで、依頼校の増加を図ります。また、やむを得ない公演の中止に対し、振り替え公演等の救済措置を検討する必要があります。

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	消防局	予防課
連絡先	582-3836	

基本計画	柱	人を育てる
	大項目	子育て・教育日本一を実感できる環境づくり
	取組みの方針	子どもの可能性をひらく学校教育の充実
	主要施策	子どもの特性を伸ばす教育の充実

関連計画	政策大綱、北九州市新消防プラン21
事業期間	平成13年度～
経費区分	裁量的経費

-1-(2)-

事業名	消防士さんといっしょ
-----	------------

【目的の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	防火・防災のプロである消防職員が「ゲストティーチャー」として小学校に出向き、各小学校の協力を得て、社会科教育の一環である「消防のしごと」の授業を行うことにより、児童への防火・防災教育の充実を図ります。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	子どもの特性を伸ばす教育の充実	成果	「消防士さんといっしょ」対象校の年間実施率	

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		現状	対象校の年間実施率 (99%)	対象校の年間実施率 (100%)	対象校の年間実施率 (100%)	対象校の年間実施率 (100%)	対象校の年間実施率 (100%)		対象校の年間実施率 (100%)	
	実施状況	成果・活動指標 (上段: 指標名、下段: 指標設定の考え方)						平成21年度	目標	
		「消防士さんといっしょ」対象校の年間実施率						計画	100 %	年度
		市内すべての小学校(ただし、特別支援学校及び複式学級等を除く)を対象とした年間実施率です。将来を担う子どもたちに「防火・防災」について認識をもたせることは、「災害に強いまち」とするための基盤として重要なことであるため、実施率100%と設定しました。						実績	99 %	内容
								達成度	99.0 %	100%
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度: 執行額]						事業費	1,142 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
							うち一般財源	千円		2,775 千円
単年度計画	(斜線表示)						担当課の他、各署予防課や、各署担当講師(警防課職員)が多数かかっています。			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	対象校131校のうち、130校で実施しました。
------	-------------------------------------	-------------------------

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	平成21年度、各小学校の担当者(先生)を対象とした授業アンケートの中で、「受講した児童の反応について」の問いに、回答を頂いたすべての小学校が、「非常に良かった」又は「よかった」と回答しており、有効性については高いものでした。		
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	本事業での使用資器材(スモークマシン等)については、少数(各署2台)で計画的に使用しており、経済的・効率的に実施できました。	
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	平成21年度、各小学校の担当者(先生)を対象とした授業アンケートの中で、「今後もこの授業は継続したいか」との問いに、回答を頂いたすべての小学校から「希望したい」との回答を得ました。	
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。		4	本事業のポイントは、消防職員(講師)自身が体験にもとづく授業内容で構成している点であるため、他の実施主体は考えられません。	
今後の方向性	ウ	ウ	本事業は、子どもたちが「防火・防災」について認識を持ち、家庭・地域生活の中で実践していく力を育むことは、将来の北九州市を「災害に強いまち」にするためにも重要なことであると考えます。よって、今後も積極的な取組みを進めていくことが適当です。		